



写真10 見つかった倉庫(奈良時代)

**豊穴建物** 15棟が見つかりました(写真5・8)。大半は一辺5m程の方形のものですが、一辺約7mの例が1棟検出されました。古墳時代前期から中期前半と考えられるものは中央付近に炉を持ち、古墳時代後期のものは造りつけカマドを持っていますが、古墳時代中期のものには炉と造りつけカマドを設けた建物も確認されています。

**倉庫** 高野遺跡南端部付近には古代東海道が東西方向に存在したことが推定されています。その推定道に近接する付近で倉庫が確認されました(写真4・10)。建物の方向はほぼ正南北方位を指向します。南北約4m×東西約5mの掘立柱建物で、平面積は12畳程あります。奈良時代末のものと考えられます。

**柵** 長さ約8.4m以上の柵が約2mの間隔を置いて2列(写真7)、さらに長さ約5m以上の柵が1.4mの間隔を置いて2列(写真9)見つかりました。いずれもほぼ正南北方位を指向しており、倉庫との関連がうかがえます。

**溝** 古墳時代後期末から鎌倉時代にかけてのものが複数見つかっています(写真1・2・3)。幅20~50cm程、深さ5~30cm程と、規模はさまざまです。平安時代前半までのものは、ほぼ南北または東西方向に、鎌倉時代のものは現代の水田と同じ向きに伸びています。また、倉庫の約2.5m北側で見つかった2条の溝は、倉庫と向きをそろえていました(写真4)。いずれも古代東海道の南側側溝の可能性があります。

## まとめ

今回の調査成果を、以下のとおりまとめておきます。

- ①野洲川左岸扇状地における古墳時代前期～後期の集落の一端を捉えることができました。
- ②今回見つかった倉庫は古代東海道に沿った建物であった可能性があり、古代東海道周辺の状況、時期とルートを考えるうえで貴重な成果と言えます。今後の調査で道路遺構が見つかることで、具体的な古代東海道の実態解明が期待されます。

# 高野遺跡発掘調査現地説明会資料

令和2年(2020年)2月29日(土)／公益財団法人滋賀県文化財保護協会

## 遺跡の概要と調査経緯

**遺跡の概要** 高野遺跡は栗東市六地蔵に所在する遺跡です。野洲川の左岸扇状地に位置しています。遺跡の範囲としては、葉山小学校のやや北から葉山東小学校付近までの南北約1km、葉山団地付近から国道1号と8号の分岐点東側までの東西約1kmが相当します。昭和57年(1982年)の宅地造成に伴う調査が実施されて以来、複数回の発掘調査が実施されていて、縄文時代前期(約7,000~5,000年前)から近代にかけての遺構・遺物が発見されています。特に古墳時代(3~6世紀、約1,800年前~約1,500年前)には県内でも有数の大規模集落の広がりが確認され、古墳時代前期を中心とした時期の集落が形成されていました。

**調査の経緯** 高野遺跡の範囲内において、滋賀県大津・南部農業農村振興事務所により六地蔵地区ほ場整備工事が計画されたため、それに先立つ発掘調査に平成30年度から着手し、本年度も調査を継続中です。

## 調査の成果

調査の結果、古墳時代の豊穴建物や奈良時代の倉庫など、古墳時代から室町時代にかけての遺構・遺物が見つかりました。主なものをあげると、次のようにになります。

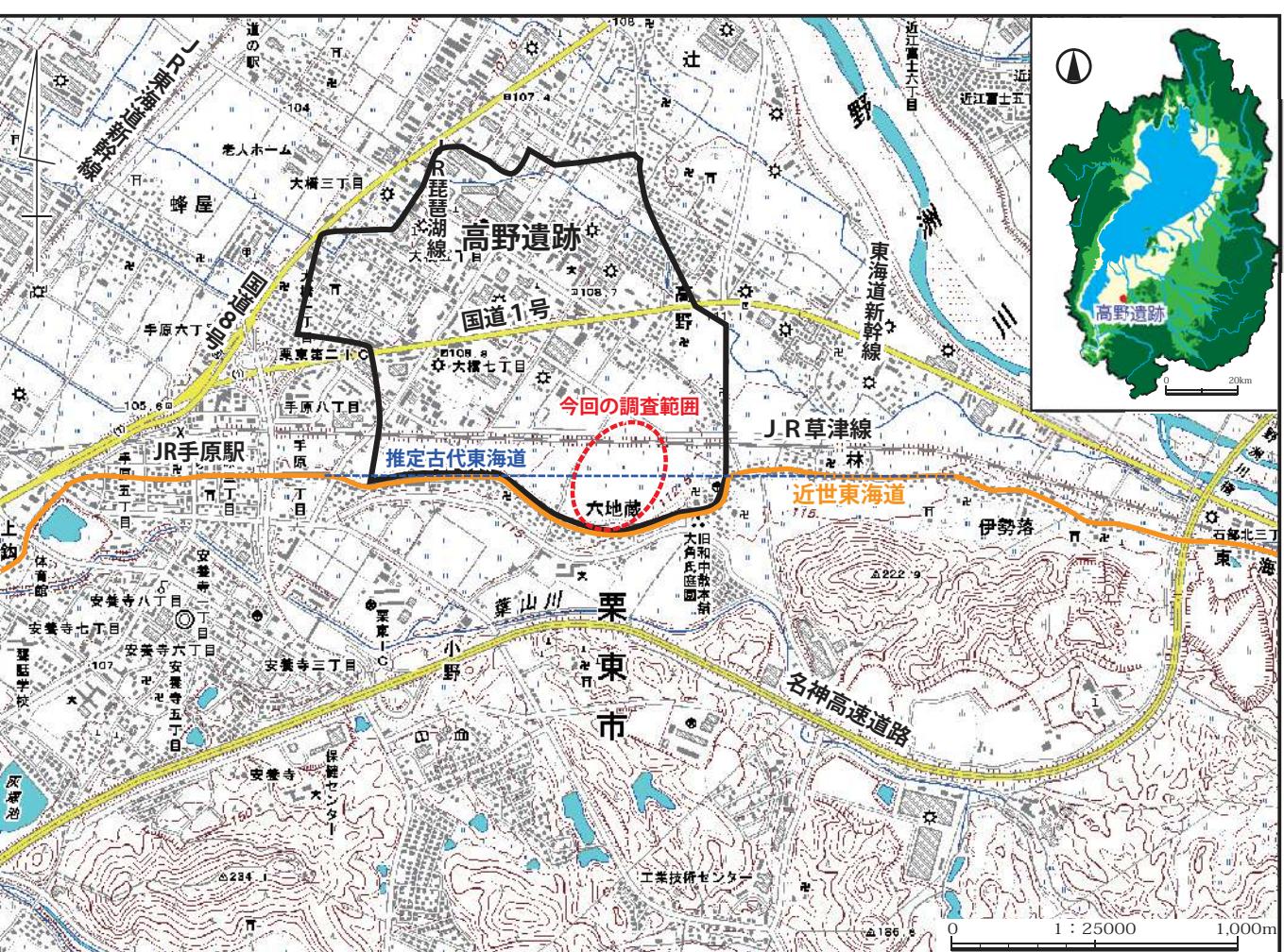


図1 高野遺跡の範囲(黒枠)と今回の調査範囲(赤色破線)



写真5 竪穴建物群(古墳時代後期)



写真6 溝内で土器が出土した様子(奈良～平安時代)



写真9 柵(奈良時代)

